

事業者名: 有限会社浦川塗装店

■本社所在地: 鳥取県倉吉市和田 235-1

■TEL: 0858-27-0535

■MAIL: info@urakawa-tosou.com

取組テーマ: 子どもが親の代になっても安心して住み続けられる空間づくりを目指す会社

■事業概要 (自社の技術・製品・サービスなど、主な事業について記載)

鳥取県中部で外壁塗装・各種屋根塗装・各種防水工事・モルタル造形・エイジング塗装を主な事業としている。2020年ごろからエイジング塗装という特殊な塗装技術を活用してリメイク缶ワークショップを行い、地域との交流も図っている。

■2030年に目指す姿 (現状を起点とした目標設定ではなく、SDGs 実現に向けた自社のあるべき姿を検討し、記載)

1.【環境先進の技術で、持続可能な美しい鳥取を実現する】

鳥取の気候風土を熟知した上で、環境負荷を最小限に抑える塗料や工法を標準的に採用し、地球温暖化防止や生態系保全に貢献している。

2.【職人が誇りと情熱を持ち、共に成長し続けられる企業となる】

従業員一人ひとりが、高い専門性と倫理観を持ち、安全で健康的に、そして創造的に働ける環境が整備されている。次世代の塗装職人の育成にも積極的に取り組み、技術と誇りを未来へ繋いでいる。

3.【地域に愛され、鳥取の美しい景観と活力を未来へ繋ぐ】

塗装事業を通じて、鳥取の美しい街並みや歴史的建造物の保全に貢献するだけでなく、地域の課題解決にも積極的に関わり、住民にとってなくてはならない存在となっている。

4.【期待を超える品質と革新で、お客様の暮らしに永く寄り添う】

創業以来大切にしてきた「丁寧な仕事」「下地処理へのこだわり」を堅持しつつ、ドローン診断などの先進技術も活用し、お客様の期待を超える付加価値を提供し続けている。



■SDGs の取組の PR ポイント

(目指す姿の実現に向けた取組として、特に PR したい内容を簡潔明瞭に記載。図や写真等も貼付可。)

- 夏は涼しく、冬は暖かい住まいを実現する遮熱・断熱塗料を積極的にご提案し、お客様の光熱費削減や省エネ化をリードし、気候変動対策に貢献しています。
- 社員の健康、お客様やご近所の皆様の安心、そして大気環境の保全のため、シックハウス症候群などの原因となる有害物質を抑えた塗料を標準的に使用しています。
- 塗料の適量発注、管理を徹底し、また空き缶や廃材もルールに則り 100%適正処理を行い、限りある資源を守ります。
- 経験豊富なベテランから若手へ、丁寧な技術指導を実施し、鳥取の未来を担う一流の職人を育てます。

■3側面の重点的取組

(重点的に取り組む項目を太字とし、現状と今後の目標・取組を記載)

社会

地域のお祭り、イベント等で来場者を対象としたリメイク缶のワークショップを行っています。リメイク缶とは、廃棄してしまうような缶詰の空き缶や塗料缶などを特殊な塗装技術で経年劣化した風合いのアンティークな缶を演出し、お部屋のインテリアや花壇の鉢などにしてもおしゃれな缶を作る事です。今後は、このワークショップをもっと沢山の場所で開催し、多くの人に塗装の可能性・魅力に触れていただきこれまで以上に女性が塗装業界で活躍していける会社、それぞれの日常生活にあった働き方ができる会社になるように取り組んでいきます。

認証申請した項目に○印	労働災害の防止	○
	ハラスメントの防止	○
	女性の活躍	○
	障がい者雇用	
	多様な人材の活躍	○
	多様な働き方の促進	○
	労働者の人権配慮	
	社会配慮商品・サービス	
	地産地消	○
	地域社会への貢献	○
+		

5. 定期的な安全教育に加え、従業員の健康診断やメンタルヘルスケアもサポートし、誰もが心身ともに健康で生き活きと働ける会社を目指します。

6. 子どもたちが楽しく学べるリメイク缶塗装体験ワークショップを開催し、未来の担い手である子どもたちの芸術性を育みます。



経済

会社の事を多くの方にも知ってもらうため、HP・SNS を導入し、定期的に更新を行っています。また、もっと様々な情報公開を行い、雇用拡大にもつながるよう取り組んでいきます。

認証申請した項目に○印	BCP 策定	
	セキュリティ対策	○
	法令遵守の取組徹底	○
	情報公開	○
	後継者の確保	
	市場変化への対応	○
	経営資源活用	○
	デジタル化・生産性向上	○
	雇用の維持・拡大	○
	人材育成・能力開発	○
	+	

環境

環境を守ることを目的に、様々な資源の消費量を削減することを進めていきます。現在は会社の電気を LED 電気や高効率モデルのエアコンに交換し、現場で使用する塗料も環境配慮型塗料に切り替え、有害物質を含まない人体にも環境にも優しい塗料を使用しています。今後は社用車にエコカーを導入、会社の電力を太陽光発電に替え、水資源も循環し再利用する装置の導入を検討しています。

認証申請した項目に○印	自社の気候変動リスク	○
	社会変化の気候変動リスク	○
	自社による環境への影響	
	燃料消費量の削減	○
	電力消費量の削減	○
	再生可能エネルギー	
	廃棄物の削減	○
	水資源の適正な管理	○
	環境配慮型商品・サービス	
	環境面での社会貢献	○
	+	

■トレードオフの分析

(上記重点的取組を推進した際に、トレードオフ(代償)としてどのような負の影響が生じるか、またそのことにどう対処していくか分析を記載)

負の影響: 環境配慮型塗料や高機能塗料は、従来の汎用塗料に比べて材料費が高くなる傾向があります。これにより、お客様への見積り価格が上昇し、価格競争で不利になったり、お客様の予算と合わずに失注したりする可能性があります。

対処方法: 価格だけでなく、「光熱費削減による長期的な経済的メリット」「健康への配慮」「資産価値の維持・向上」といった価格以上の価値を、お客様に分かりやすく説明し、納得感を高めます。複数の仕入れ先との関係を構築し、仕入れコストの削減に努めます。施工工程の見直し等により、工数を削減し、人件費の上昇を抑制することで、全体のコスト増を吸収します。

(様式第2号) とっとりSDGs企業認証 チェックシート [2024年3月改正版]

(企業名: 有限会社 浦川塗装店)

社会	7	○
経済	8	○
環境	7	○
合計	22	○

(○となった取組項目数とその各側面の判定)

(各側面で○となった取組項目数の合計と全体の判定)

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
社会1	労働災害の防止				○			
社会1			[KPI] 労働災害の年間発生件数	✓	0件		0件	安全教育を続け、労働災害0を会社全体で目指す
社会1			労働安全衛生に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている					・安全教育の定期的な実施と、健康診断・メンタルヘルスケアの受診率向上を推進する
社会1			安全衛生委員会の設置など、社内体制を整備している					・現場でのヒヤリハット報告を奨励し、改善策を共有・実践する仕組みを導入する
社会1			安全対策のルールやマニュアルなどを整備している					・全従業員が安全意識を高く持ち、自律的に安全行動を行う。また、社員同士も指摘しあひを高めあっている
社会1			危険箇所・ヒヤリハットの情報収集、実態把握を行っている	✓		各現場での危険箇所・ヒヤリハット報告を受け随時対応。また事前に現場点検を行い、危険箇所があれば是正している		
社会1			労災防止のための具体的な施設・設備の導入、改善を行っている					労働災害ゼロを維持し、従業員が安全かつ健康に働ける職場環境を確立
社会1			労働安全衛生に関する研修を行っている	✓		月に1回、社内で安全衛生協議会を実施し、研修を行っている		
社会1			安全意識を醸成する外部の活動に参加している	✓		月に1回、各元請けが行う災害防止協議会に出席している		
社会1			ISO45001などの労働安全衛生マネジメントシステム認証を取得している					
社会1			取引先において労災を誘発しないよう取引条件等に配慮している					
社会1			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
社会2	ハラスメントの防止				○			
社会2			[KPI] ハラスメントの年間相談件数	✓	0件		0件	定期的な面談を行い、ハラスメント防止を徹底する
社会2			ハラスメント防止に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている					
社会2			ハラスメントを許さないことを経営トップがメッセージを発信している	✓		社労士と相談して就業規則にハラスメント防止規定を記載し、社員に開示している。その中にハラスメントを行った者は懲戒処分を行うことを宣言している		
社会2			ハラスメントに関する相談窓口を設置するなど、相談体制を整備している					ハラスメントのない、従業員全員が互いを尊重し、安心して働ける職場環境を実現する
社会2			相談者・行為者等のプライバシー保護のための措置を講じ、周知している					
社会2			ハラスメントを行った者に対する懲戒規程等を整備し、従業員に周知している	✓		就業規則に明示・開示してから雇用契約書を交わしている		
社会2			アンケートや面談などにより、実態把握を行っている	✓		実態を把握するため、面談を行っている。		
社会2			ハラスメント防止に関する研修を行っている					
社会2			社員同士以外のハラスメント（顧客、取引先、就活生等）の防止を図っている	✓		ハラスメントが行われても1対1の面談だと実態が把握できないため複数で面談を行うようにし、こちら側からも取引先からもハラスメントを起こしていないか実態を把握する		
社会2			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
社会3	女性の活躍				○			
社会3		★	[KPI] 全従業員に対する女性従業員の割合	✓	37.5%	従業員数 8人（女性従業員数 3人）	50%	継続して求人する
社会3		★	[KPI] 管理職に占める女性労働者の割合	✓	33%	（女性管理職数1人 / 全管理職数3人）	33%	女性従業員が管理職になれるよう研修を受講してもらい、管理職になれる人材を育てていく
社会3			[KPI] 男性従業員賃金の平均額に対する女性従業員賃金の平均額の割合	✓		62.50%	68.00%	・女性従業員がキャリアアップできるよ、費用を会社が負担し、スキルの取得を目指してもらう
社会3			[KPI] 男性従業員の育児休業等取得率	✓		2025年に初めて取得者あり 1/1 100%	対象者がいれば100%	誰でも必要な時に取得できる雰囲気作りと、取得者があってもフォローしあえる体制作りのため、雇用数を増やす
社会3			女性の活躍に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		月に1.2回程度中小企業診断士と面談し、指導・助言を受けている。		
社会3			女性の活躍について、会社の方針を表明している					[1年目] 女性従業員のキャリアアップを支援するための研修機会（資格取得支援など）を設ける
社会3			育児・介護に配慮した柔軟な勤務形態導入などの規程を整備している	✓		就業規則を渡し、社員に閲覧し把握してもらっている		[2年目] 女性管理職の登用を積極的に推進し、性別に関わらず誰もが能力を発揮できる職場を目指す
社会3			自社の女性の活躍について、アンケート等により実態や課題を把握し分析している					
社会3			必要な施設・設備の導入、改善を行っている					
社会3			女性のキャリアアップに向けた研修の実施や、外部研修への参加を推奨している	✓		日本創造教育研究所のグロスアカレッジを使い社員と動画を見てディスカッションを行い、みんなで高めあったり、日本創造教育研究所が行う研修を受けたりし、自分を高める。		
社会3			県の輝く女性活躍パワーアップ企業、国のえるほし認定等に登録されている					
社会3			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
社会4	障がい者が働きやすい職場づくり				-			
社会5	多様な人材の活躍				○			
社会5			[KPI] 中途採用比率	✓		50.0%	66.6%	様々な方向からアプローチし、継続して雇用活動を行う
社会5			[KPI] 離職率または退職者数	✓	0人		0人	安心して働ける職場づくり
社会5			[KPI] 外国籍の社員数					
社会5			[KPI] 65歳以上の社員数	✓	0人		1人	希望者には再雇用していく
社会5			多様な人材の活躍に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている (※本項目では、女性、障がい者以外の人材を対象)					・若手職人への技術指導を強化し、一人ひとりのスキルアップを支援する
社会5			多様な人材（属性、キャリア・経験など）の活躍について、会社の方針を表明している (※本項目では、女性、障がい者以外の人材を対象)					・熟練職人のノウハウを体系化し、次世代へのスムーズな技術継承を促進する
社会5			経営層は、多様な人材との対話や、課題の把握・解決を実践している	✓		面談を定期的に行い、課題と解決策を一緒に模索し、実践している。		・多様な背景を持つ人材（例：未経験者、経験者など）の採用を積極的に検討し、育成プランを策定する
社会5			同一労働同一賃金に基づく待遇格差解消に取り組んでいる	✓		同一労働・同一賃金という給与制度にしている。		
社会5			非正規労働者の正規への転換など、非正規労働者の処遇改善を推進している					
社会5			高齢者の特性に応じた仕事内容の工夫や施設整備・設備導入を行っている	✓		60歳以上の社員は、足場上部に上がらないようにしている、また営業職や現場管理へ配置換えを行っている		
社会5			外国人労働者の受け入れに関する体制づくりを行っている					
社会5			その他（※法令の規定への対応は対象外）					

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
社会6	多様な働き方の促進				○			
社会6			[KPI] ひとあたりの労働者の平均残業時間	✓		0時間	0時間	残業なくとも業務がこなせるよう人材雇用する
社会6			[KPI] 年次有給休暇の取得率			(参考) 4月1日から9月30日現在 42.7% / 100.0%	100%	有給取得しやすい職場づくりを行う
社会6			多様な働き方に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている					[1年目] ・残業時間の削減に努め、月平均残業時間0時間を旨とする [2年目] ・有給休暇の取得促進策を強化し、取得率100%を目指す [3年目] ・必要に応じて、短時間勤務制度やフレキシブルな勤務体系の導入を検討する
社会6			健康経営を経営方針として位置付けている	✓		健康経営を経営方針として位置付け、鳥取県と協会けんぽ鳥取支部から『社員の健康づくり宣言』事業所として認定を受けている		
社会6			管理職の人事評価に、部下の残業時間や有給休暇取得状況を関連付けている					
社会6			上記以外の休暇を取得しやすい独自の仕組みを設けている	✓		子どもの病気、行事ごとなどの休暇、中抜けを申告があれば受理している。日給月給制を設けることで、有給を消化しなくても社員が気兼ねなく休みやすい体制をとっている。		
社会6			フレックスタイムや在宅勤務、短時間勤務など柔軟な働き方に関する制度を設けている					
社会6			従業員の副業を認めている	✓		副業は認めているが、実績として0件		
社会6			従業員へのヒアリングなどにより、課題等の実態把握を行っている					
社会6			その他(※法令の規定への対応は対象外)					
社会7	労働者への人権配慮				○			
社会7			「ビジネスと人権」に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		おさき社会保険労務士事務所と顧問契約を締結し、弊社の労働条件や労働者への福利厚生について、監査してもらっている		
社会7			人権方針(人権ポリシー)を作成・公開している					
社会7			管理的地位にある従業員に対して、意識啓発や研修を行っている					
社会7			雇用契約書の締結、または、労働条件通知書を交付している	✓		雇用契約書を作成した上で、共に押印し、それぞれ保管		
社会7			人権関連トラブルについて、従業員や取引先向けアンケートや相談窓口設置を行っている					
社会7			取引先において強制労働、児童労働が排除されていることを確認している					
社会7			その他(※法令の規定への対応は対象外)					
社会8	社会配慮型商品・サービスの提供		※環境に関する内容は環境9に記載		-			
社会9	地産地消				-			
社会9			[KPI] 県内事業者からの調達率	✓		約60%(件数ベース)	100%	継続して調達する
社会9			地域産業の発展や地域の事業者との共存共栄を経営方針に位置付けている					
社会9			パートナーシップ構築宣言を行っている					
社会9			地元事業者から、積極的・優先的に仕入れている	✓		業務に必要な材料、資材、車両、OA用品を県内業者から購入している		
社会9			地域資源・地元産品を活用した商品・サービスを開発・提供している					
社会9			「食バラタイス鳥取県」アンバサダーに登録している					
社会9			その他					
社会10	地域社会への貢献		※ビジネスとしての活動は社会8、環境に関するものは環境10に記載		○			
社会10			地元自治会との交流イベント主催、防災訓練への参加など、地域活性化の取組を行っている	✓		地元開催のイベントに、リメイク缶塗装体験ワークショップを出店している		
社会10			地域の学校における社会教育活動に協力している					
社会10			地域の自治体や学校、福祉団体等への寄附や寄贈を行っている	✓		「朝小ニュースあれこれ」を地元の小学校に配布するため、寄付している 子ども食堂維持のため、寄付を行っている		
社会10			災害時等に、地域住民に対して物資や避難場所の提供等を行っている又は同様の取組に係る地域防災協定を締結している					
社会10			「あいサポート企業」登録など、障がいのある無償に問わず尊重しあう社会づくりに参画している					
社会10			通勤、出張時の公共交通機関利用を促進するなど、地域交通機関の維持に貢献している					
社会10			その他					
社会+			※社会1~10に該当しない項目について記載(該当するものは対象外)		-			
経済1	事業継続計画(BCP)の策定		※自社自身の取組を記載(他者の支援は社会8または10で記載)		-			
経済2	セキュリティ対策				○			
経済2			セキュリティについて、専門機関の診断・指導を受けている					
経済2			取引先や運送・清掃業者など、建物に出入りする者のセキュリティ上のルールを整備している					
経済2			個人情報や機密情報の入手、利用、保管、提供、消去等の取扱ルールを設けている					
経済2			情報セキュリティに関する管理者や専門部署を設置している					
経済2			経営層や従業員に対して、専門家によるセキュリティ研修を行っている					
経済2			ウイルス対策ソフトの導入やOS等の定期的な更新を行っている	✓		定期的に更新を行っている		
経済2			重要な情報については、アクセス制限を行っている	✓		重要な情報に権限がないものがアクセスできないように、アクセス制限を行っている		
経済2			ISMS認証やPマークなどを取得している					
経済2			その他、具体的なセキュリティ対策を実施している	✓		セキュリティソフトを導入し、対策を行っている		
経済3	法令順守の取組の徹底(必須)				○			
経済3			コンプライアンスに関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		森・斎藤税理士法人と顧問契約を結んでおり、月1回の監査の際に会計・税務関係のコンプライアンスについての指導・助言を受けている		
経済3			経営トップが、法令順守することについて、社内外にメッセージを発信している					
経済3			自社事業に関わる法令を把握・社内共有し、遵守している	✓		法令改正や重要なコンプライアンス事項については、定期研修を通じて全社員に周知しています。		
経済3			コンプライアンス委員会の設置など、チェック体制を設けている					
経済3			公益通報制度(内部通報制度)を整備している					
経済3			コンプライアンスマニュアルなどの社内規定の作成し、社内周知している					
経済3			従業員に対するコンプライアンス研修を実施している	✓		週に1回、朝礼時に情報漏洩などのコンプライアンスについて研修をしている		
経済3			その他(※法令の規定への対応は対象外)					

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
経済4	情報公開				○			
経済4			地域住民に影響を及ぼす可能性のある事業活動について、関係自治体や地域住民への情報提供など、適切なコミュニケーションを行っている				企業の事業活動やSDGsへの取り組みについて、地域住民、お客様、求職者など多様なステークホルダーに対し、積極的に情報を公開する	・公式サイトやSNSを通じて、事業内容、SDGsへの取り組みなどを定期的に発信する ・お客様からの意見・要望を受け付ける問い合わせフォーム等を設置し運用する ・顧客や取引先に影響のある情報漏洩や品質問題が発生した場合の公表基準を設け、適切に運用できる体制を整備する
経済4		就職を希望する者に対して、人事労務や就業実態等に関する情報提供を行っている	✓		労働条件、職場環境、人材育成、働き方の情報提供			
経済4		情報提供にあたっては、多様な利用者や利用環境（アクセシビリティ）に配慮した情報提供を行っている						
経済4		消費者や取引先からの情報開示の問い合わせに対する対応方針を策定し、適切に対応している						
経済4		消費者や取引先に影響のある情報漏洩や品質問題などの公表基準を設け、適切に運用している						
経済4		会社としての公式ホームページやSNSを有し、定期的に情報発信している	✓		ホームページ、フェイスブック、Instagramを運用し、定期的に更新と情報発信を行っている			
経済5	後継者の確保		その他（※法令の規定への対応は対象外）		-			
経済6	市場変化を見据えた対応				○			
経済6			自社事業に影響を及ぼし得る、顧客のライフスタイル、価値観の変化を把握し、分析している	✓		お客様との面談・問い合わせから顧客の価値観の変化を把握。塗料メーカーと情報共有を行い、世論のライフスタイル等を把握、分析を行いお客様へ塗料の提案を行っている	市場の変化を常に先読みし、お客様のニーズに応える革新的な技術やサービスを継続的に提供する企業となる	【1年目】 ・定期的な市場調査を実施し、最新の塗料技術や顧客ニーズに関する情報を収集する 【2年目】 ・収集した情報に基づき、新サービスや高付加価値商品の開発を検討するチームを立ち上げる 【3年目】 ・ドローン診断など先進技術の導入を加速し、サービス提供の効率性と品質を向上させる
経済6		今後見込まれる法令改正や規制緩和がもたらす自社事業への影響を把握し、分析している						
経済6		上記変化を踏まえた自社の商品・サービス、事業領域の見直しを行っている	✓		お客様のニーズを把握し、そこから市場で求められていることを割り出し、自社の商品・サービスの見直しを行っている。			
経済7	自社以外の経営資源活用		※グループ企業間での取組は対象外		○			
経済7			大学や試験研究機関などの有する専門性を活用している				効率的な経営資源の活用により、コスト競争力を高めながら、高品質なサービスを提供し続ける	【1年目】 ・塗料や資材の仕入れ先を複数確保し、コスト削減と安定供給を図る 【2年目】 ・業務プロセスの見直しを行い、無駄を排除することで、人件費を含む全体コストの抑制を目指す 【3年目】 ・デジタルツールを積極的に活用し、見積もり作成や工程管理の効率化を推進する
経済7		技術・ノウハウ、知的財産等に関する他社との連携・オープンイノベーションに取り組んでいる						
経済7		副業・兼業などの外部専門人材や、土壌等の専門家の知見を活用している	✓		週一副社長制度を活用している。面談し、たくさん助言をいただいた中で、身近に着手できそうなことから始め、助言を基にHPを改修、SNSでのマーケティングやPRマテリアルで作成したりメイク缶の販売をしている			
経済7		自社の中核事業と非中核事業を見極め、戦略的に外部委託を行っている						
経済7		投資ファンドなどの外部資金を獲得している						
経済7		関係企業、業界団体のネットワークに参加し、情報収集や情報交換を行っている	✓		塗装協会に所属し、定期的に勉強会を開催している			
経済7		その他						
経済8	デジタル化による生産性向上				○			
経済8			[KPI] 労働生産性（付加価値額÷従業員数）				先進的なデジタル技術を導入・活用し、業務効率と生産性を飛躍的に向上させる	【1年目】 ・顧客管理システムをデジタル化し、顧客情報の一元管理と迅速な対応を可能にする 【2年目】 ・社内業務のペーパーレス化を推進し、紙の使用量とそれに伴う作業時間を削減する 【3年目】 ・ドローンを用いた外壁診断システムを導入し、見積もり作成の効率化を図る
経済8		専門家から助言・指導を受けながら、経営層が主体となってデジタル化・DXを進めている	✓		リコー(株)から見積り・請求・工事台帳を一環して管理、また業務効率化などのアドバイスを受けながらデジタル化を進めている			
経済8		デジタル化・DXに関する計画や方針を策定している						
経済8		デジタル化を推進する専用の部署や人材など、体制づくりを行っている	✓		担当者を設定し、デジタル化を進めている			
経済8		営業・仕入れ・販売、開発・製造管理など、個別業務のデジタル化を行っている	✓		工事の進捗状況を写真・動画等でアプリを活用し報告している			
経済8		業務間のデータを連携し社会的なデジタル化による業務変革・DXを進めている						
経済8		顧客・取引先との接点業務など各種業務におけるデジタル技術の活用状況を分析し、運用改善を行っている						
経済8		新たな価値や顧客創出に向け、AI、ビッグデータ等を活用している						
経済8		その他						
経済9	雇用の維持・拡大		※採用活動そのものは対象外		○			
経済9		★ [KPI] 従業員数		✓		8人	全体従業員数 10人	様々な方向からアプローチし、継続して採用活動を行う ・若手職人の計画的な採用を継続し、安定した人材供給を確保する ・従業員が長く安心して働けるよう、福利厚生や処遇の改善を検討する ・事業拡大や新技術導入に伴い、新たな職務の創出と雇用機会の提供を目指す
経済9		採用後にミスマッチが起きないよう、インターンシップや内定後のフォローアップなどを行っている						
経済9		会社の成長・発展に向けた事業転換や経営の多角化、設備投資を行っている	✓		足場事業を計画しており、展開していくにあたり、元足場事業所で営業されていた方に営業方法や売り込み方などの助言を受けている			
経済9		新規出店や商圏拡大、M&Aなどの事業拡大に取り組んでいる	✓		島根県で取引を開始し、業務開始した			
経済9		事業転換や多角化、商圏拡大などの方針を踏まえた人材のスキル転換、処遇改善、採用活動を行っている						
経済9		人材確保のため、物価上昇率なども動向し、賃上げ（ベースアップ）を行っている	✓		年に1回、賃上げをしている			
経済9		離職防止、ES向上に向けた取組を行っている						
経済9		その他						
経済10	人材育成・能力開発				○			
経済10			経営層関与の下、従業員の能力向上に向け、一定の予算を確保し、人材育成に取り組む方針を示している				継続的な技術指導と能力開発プログラムを通じて、全ての職人が塗装技術と関連知識のプロフェッショナルとして成長できる環境を整備する	【1年目】 ・社員一人一人のスキルマップを作成し、現状のスキルレベルを可視化する 【2年目】 ・スキルマップにもった個別研修計画を策定し、外部講習や資格取得支援を強化する 【3年目】 ・熟練社員がトレーナーとなり、OJTの質を向上させるための仕組みを導入する
経済10		業務に必要なスキルマップを作成・更新している						
経済10		従業員のスキルを定期的に把握し、能力開発計画を策定・更新している						
経済10		外部研修への参加やeラーニングの活用を奨励し、積極的に受講させている						
経済10		OJTの質の向上に向けた業務内容のマニュアル化やマニュアルの見直し、トレーナー教育を行っている	✓		技術向上と施工順序統一の為、動画を作成し、いつでも確認できるようにしている			
経済10		ジョブローテーションにより、計画的に従業員のスキルアップ・多能工化を図っている						
経済10		能力の向上を人事評価や処遇に反映させる仕組みを設けている	✓		有資格者には資格手当を支給することを就業規則に明記している			
経済10		従業員の資格取得を推奨し、要する費用を支援している	✓		受講者がいるときは全額支援している			
経済10		その他						
経済+			※経済1～10に該当しない項目について記載（該当するものは対象外）		-			

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
環境1	自然環境の変化が経営にもたらす影響		【気候変動リスク・機会の分析・対策①】 リスクを特定している（気候変動による災害リスクの主なもの 急性リスク：洪水、台風、自然火災等／慢性リスク：海面上昇、高温、水不足等）	✓	○	分析・検討内容を記載		
環境1			上記リスクの自社への影響を分析している（特定したリスクそれぞれについて記載）	✓		台風/高温としてリスクを特定している。 ・高温により塗料の劣れが生じる可能性があり、やり直しが生じる可能性がある。また、高温の影響で熱中症などが起きやすくなっている。そして海水温度の上昇にもつながり、豪雨等の影響で業務ができなくなる。 ・台風の影響で足場等の倒壊が起きやすくなり、重大災害につながる可能性がある。	気候変動による自然災害や市場変化のリスクを継続的に分析し、事業への影響を最小限に抑え、安定した事業運営を実現する	【1年目】 ・極端な気象条件（豪雨、酷暑など）が施工スケジュールや作業環境に与える影響を評価し、対応策を検討する 【2年目】 ・塗装作業における天候リスクを軽減するための技術や工法の導入を検討する 【3年目】 ・気候変動に対応した塗料（例：高耐久性、耐候性向上）の市場動向を調査し、顧客提案を活かす
環境1			上記リスクについて優先順位（発生頻度×影響の重大性）をつけている	✓		①高温、②台風		
環境1			上記リスクへの対策を進めている	✓		①遮熱塗料を使用し、熱を反射させることで、塗装表面温度が高くなるのを防ぎ、塗膜の劣れ防止を図っている。また、熱中症対策として日差しを遮るテントの設置を行い、空調服・冷却ベストの着用、こまめな休憩を行っている ②台風の際、通過が予想される際は、足場等の倒壊を防ぐため、足場のメッシュシートを撤去または、畳む事で防いでいる		
環境1			自然環境の変化による機会について分析している	✓		昨今の異常気象による高温化によって、部屋の温度上昇等による熱中症が多発している。環境負荷の少ない素材や省エネ設計を提案し、環境意識の高い消費者層への訴求力を強化しています。		
環境2	社会・制度の変化が経営にもたらす影響		【気候変動リスク・機会の分析・対策②】 リスクを特定している（気候変動による社会・制度に関する4種類のリスク：政策・法規制、技術、市場、評判）	✓	○	分析・検討内容を記載		
環境2			上記リスクの自社への影響を分析している（特定したリスクそれぞれについて記載）	✓		市場リスク：環境配慮型塗料や高性能塗料の使用による材料費増加がもたらす利益率圧迫 評判リスク：企業としての信頼は一度失墜すると回復困難 政策、法規制リスク：有害物質に対する規制強化などに対応しないことによる受注機会を損失するリスク 技術リスク：新たな塗料や塗装技術に対応しないことによる受注機会を損失するリスク	気候変動に関する社会・制度の変化（政策、法規制、市場、評判）を的確に把握し、事業戦略に反映させることで、持続可能な社会の実現に貢献する	【1年目】 ・環境規制や補助金制度に関する最新情報を継続的に収集し、社内での共有体制を構築する 【2年目】 ・お客様の環境意識の高まりに対応するため、環境性能の高い塗料のランナップを拡充し、提案力を強化する 【3年目】 ・環境に配慮しない企業への評判リスクを回避するため、自社の環境への取り組みを積極的に情報発信する
環境2			上記リスクについて優先順位（発生頻度×影響の重大性）をつけている	✓		①市場リスク、②評判リスク、③政策、法規制リスク、④技術リスク		
環境2			上記リスクへの対策を進めている	✓		①市場リスク：既存顧客への定期メンテナンス提案のより安定収益確保 ②評判リスク：施工完了後アンケートを実施、顧客の意見、要望を取り入れ定期的なフォローアップを行い良好な関係を維持構築します。 ③政策・法規制リスク：塗料メーカーと定期的な情報交換を行い、規制情報を効率的に収集します。 ④技術リスク：従業員間での技術共有会を実施 環境に優しい製品・サービスを提供することで、顧客ロイヤリティやブランドイメージの向上が可能		
環境2			社会・制度の変化による機会について分析している	✓				
環境3	自社の事業活動が引き起こす影響		【環境負荷リスクの分析・対策】		-	分析・検討内容を記載		
環境4	燃料消費量の可視化と削減 (Scope1)		【カーボンニュートラル①<省エネ>】 【KPI】 Scope1のCO2排出量	✓	○			
環境4		★		✓		年間 6.29 t-CO2	年間5.5t-CO2	低燃費エコーを導入する
環境4			専門家による省エネ診断を実施し、削減に向けた助言・指導を受けている	✓		月に1回面談し、サステナビリティ経営エキスパート萬氏が助言を受けエコー導入を検討中		【1年目】 ・社内での省エネ意識を高めるための啓発活動を強化し、日常的な省エネを徹底する 【2年目】 ・CO2排出量削減のため、エコーに段階的に切り替えていく 【3年目】 ・エネルギーの使用状況を可視化するシステム導入を検討し、さらなる削減目標を設定する
環境4			省エネ設備（高効率ボイラ等）の導入・更新を行っている					
環境4			EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入し、エネルギーの使用状況を可視化やエネルギー運用の効率化を行っている					
環境4			CO2総排出量削減のため燃料を電気や都市ガスへ切り替えている	✓		エンジン型コンプレッサーを電気式コンプレッサーに変更し、燃料とCO2の削減を図っている	会社全体の電力消費量を継続的に削減し、エネルギー効率の高い運営を実現する	
環境4			燃料消費量低減につながる設備等の運転を行っている					
環境4			その他					
環境5	電力消費量の可視化と削減 (Scope2)		【カーボンニュートラル②<省エネ>】 【KPI】 Scope2のCO2排出量	✓	○			
環境5		★		✓		年間 6.09 t-CO2	5.8t-CO2を目標にします。	太陽光発電などを導入し、持続可能なエネルギーを活用しCO2排出削減する
環境5			専門家による省エネ診断を実施し、削減に向けた助言・指導を受けている	✓		サステナビリティ経営エキスパート萬氏、(株)ホームズの牧井氏から省エネ対策の助言を受けている		【1年目】 ・社内での省エネ意識を高めるための啓発活動を強化し、日常的な省エネを徹底する 【2年目】 ・LED照明への全面的な切り替えや、高効率空調設備の導入を段階的に進める 【3年目】 ・電力使用状況を可視化するシステム導入を検討し、さらなる削減目標を設定する
環境5			省エネ設備（LED照明、高効率空調等）の導入・更新を行っている	✓		LED照明、高効率空調の導入を随時行っている		
環境5			EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入し、エネルギーの使用状況を可視化やエネルギー運用の効率化を行っている					
環境5			省エネに対応した建物改修を行っている					
環境5			節電マニュアルを作成し実践している					
環境5			その他					

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
環境6	再生可能エネルギーの導入		【カーボンニュートラル③<創エネ>】		-			
環境7	廃棄物の削減		※自社自身の取組を記載（他者を促す内容は環境9に記載）		○			
環境7		★	[KPI] 総廃棄物発生量（※産業廃棄物だけでなく事業系一般廃棄物等も含む）	✓		年間 約0.81t	年間 約0.75 t 会社全体で廃棄物削減に取り組みます	廃棄する前の塗料を活用し行政に連携し、学校等の施設保全の為に役立てる
環境7			事業別、事業所別の廃棄物排出量について、インバクトの大きな内訳を把握・分析している				塗料缶や廃材を含む事業活動からの総廃棄物排出量を大幅に削減し、資源の再利用・適正処理を徹底することで廃棄物ゼロを目指す	・塗料の適量発注・管理を徹底し、未開封・余剰塗料の発生を削減する ・空き缶や廃材の分別をさらに強化し、リサイクル業者との連携を密にする ・リメイク缶ワークショップを継続・拡大し、廃棄物のアップサイクルを促進する
環境7		廃棄物削減についての計画を策定し、具体的な取組を行っている						
環境7		フードバンクやフードドライブ、フードシェアリングなどにより食品廃棄物削減を推進している						
環境7		調達・設計・製造段階で、廃棄物をできるだけ出さないような対応を行っている	✓		ロス塗料が出ないように余分に調達しないよう計画			
環境7		製品・サービスの提供段階で、廃棄物をできるだけ出さないような対応を行っている						
環境7		廃棄物を資源として再利用することを事業実施上の仕組みとして取り入れている	✓		廃棄する塗料の空き缶をリメイク缶として作成し、オブジェ・物入れとして活用できることを提案している			
環境7		その他（※法令の規定への対応は対象外）	✓		遊具、空き家の塗替えを廃棄前塗料で行う提案を行政等に行っている			
環境8	水資源の適正な管理		※自社自身の取組を記載（他者を促す内容は環境9に記載）		○			
環境8		★	[KPI] 年間使用量	✓		566 m ³	500m ³ 会社全体で水資源削減を行う	節水対策として、本社の水道設備を節水型に切り替える
環境8			事業別、事業所別の使用量について、インバクトの大きな内訳を把握・分析している	✓		水性塗料で使用した塗装機材を洗浄する際に出る水が一番多い	事業活動における水資源の年間使用量を削減し、環境負荷の低減に貢献する	・塗装機材の洗浄水の節水対策を検討・実施する。 ・本社における水道設備の節水型への切り替えを検討し、導入を推進する ・従業員に対し、日常的な節水意識を高めるための啓発活動を実施する
環境8		水使用量削減についての計画を策定し、具体的な取組を行っている						
環境8		水質汚濁防止法等に基づき、排水の水質等について、適正な管理・運用を行っている	✓		水性塗料で使用した塗装機材を洗浄する際に出る排水を凝集剤をもちいて、水と塗料生分に分離・固化させ固形物は産業廃棄物として処分し、分離した上澄みの水は排水処理場で排水の水質を管理している			
環境8		工場内等で水を循環利用するための施設を整備している	✓		水性塗料で使用した塗装機材を洗浄する際に出る排水を凝集剤を用いて、水と塗料生分に分離・固化させ分離した上澄みの水を何回も洗浄水として使用することで、水使用量の削減に努めている			
環境8		その他（※法令の規定への対応は対象外）						
環境9	環境配慮型商品・サービスの提供				-			
環境10	環境面での社会貢献		※ビジネスとしての活動は環境9に記載		○			
環境10			会社として、道路・海岸や砂丘など、地域の清掃活動を行っている	✓		本社所在地の地域の清掃活動に参加している	塗装事業を通じて地域の環境保全活動に積極的に参加し、次世代を担う子どもたちへの環境教育に貢献する	・地域清掃活動への社員参加を奨励し、参加人数・回数を増やす ・自社の環境への取り組みをSNS等で積極的に発信し、地域社会全体の環境意識向上に貢献する
環境10		調達時には、グリーン商品や森林認証（FSC、SGEC）を受けた商品など、環境に優しい商品を選定している	✓		FSC認証コピー用紙使用、環境配慮型塗料を使用している			
環境10		生物多様性の保全のための植樹活動や野生鳥獣保護活動を行っている						
環境10		J-クレジット購入又は共生の森づくりへの参加により、地域の森林保全に貢献している						
環境10		学校や地域に対して、環境教育活動を実施している						
環境10		環境保全のための寄附、寄贈等を実施している						
環境10		その他						
環境+			※環境1～10に該当しない項目について記載（該当するものは対象外）		-			